

平成26年5月2日

板橋区長 坂本 健 様
板橋区教育長 橋本 正彦 様

板橋区手をつなぐ親の会 会長 小西 早苗

(仮称) 東京都板橋区いじめ防止対策の基本理念及び 組織等に関する条例(案)に関する意見書

日頃より、知的障がいや発達障がいのある子ども及び保護者に対し、ご尽力いただき心より感謝申し上げます。

この度発表された、(仮称) 東京都板橋区いじめ防止対策の基本理念及び組織等に関する条例(案)では、「子どもが安心して生活し、健やかに成長できる環境づくりに寄与する」とありました。この条例によりいじめを未然に防ぎ、子ども一人ひとりが持つ可能性を伸ばすことができるような、よりよい社会になるよう期待しております。

しかし現状では、子どもたちはいつ誰がいじめに遭うかわからない不安な状況の中で生活しており、とりわけ、障がいがあるということだけで健常児の数倍の割合でいじめに遭うという報告もされるほど、障がい児にとっていじめは切り離すことができない問題です。

そのような状況を改善するためにも、本会は以下の内容を意見書として提出いたします。

1、全ての児童生徒や保護者及び教員に対し、障がいへの理解及び、それぞれの個性や人格の違いを認め合う教育を進めてください。

現在行われている、「障がい理解に関する学習」をより発展させるとともに、相互の人格と個性を尊重し合うことを目指した交流及び、共同学習をさらに充実させてください。

また、障がい特性に関する理解や専門性の向上を図るよう、教職員の研修等を重ねてください。

2、障がいのある児童生徒に対する適切な支援や指導を充実させる教育を進めてください。

コミュニケーション技術の向上等を含む、一人ひとりのニーズに合わせた特別支援教育を充実してください。

以上

(参考資料)

いじめに関する調査結果

※アンケート対象者：板橋区手をつなぐ親の会学齢部会員（保護者）

《具体的ないじめの例》

①学童クラブからの帰宅後、ランドセルの中のめがねケースが粉々になっていた。学童の指導員は「学校から本を一杯借りてきていて、ランドセルの中が一杯で壊れたんじゃないか？」と…。（そんな壊れ方ではなかった）学校にも聞いて見るが下校時にはめがねケースは普通であったと報告をうけ、「毎週金曜日には同じ状態で、今まで壊れたことはないの子ども達に聞いて欲しい。」と保護者から申し出る。その後、目撃していた子どもからの証言で、何名かの子ども達が障がい児をからかっていた、その中の一人がランドセルの上を飛び跳ねていたことが判明。母親からの謝罪はあったが、こちら（障がい児）が悪いような言い方をされた、学童の指導員は仲介はせず。弁償すると言っていた（弁償はしなくて良いと断ったが、是非とのことだった）めがねケースは学童クラブを卒業するまで手元には届かなかった。

②学童クラブで学帽紛失、ロッカーとロッカーの間で発見。子ども達みんなに聞いたがわからずじまい。自分で投げることはとても出来ない。指導員の死角がある。

③通学路で独り言を言って登校している生徒に対し、同じ学校の生徒が「ばーか！死ねよ！きもいよ！」と言う。

④福祉作業所利用者が帰宅時に、同建物（作業所と）在住の中学生数名にからかわれ、隣の公園の鉄の柵をまたげ！などと強要される。目撃者が利用者の保護者に連絡した。

⑤福祉作業所の利用者が職場に早く着いて、建物の外で待っていたら「怖い人がある」と学校に連絡が入って、学校関係者から注意を受けた。

⑥通常級に通う生徒が何か出来ないと言った担任教師が「5組さんに行ってもらいますよ」と言う。

⑦中学校の生徒が何か出来ない子に向かって「支援学級にいけよ」という。

⑧小学生の頃あいキッズで遊んでいたところ、固定学級の男の子が通常級の低学年の男の子に、お前みたいな奴は死ねばいいと言われた。

⑨固定学級の女の子が、通常級の同学年の女の子数人に泣かされて帰ってきた（言葉の暴力）。

- ⑩中学の固定学級の女の子が二人で登校中、同校の女の子（二人）に馬鹿と言われたと言われた。
- ⑪大山小がなくなって新しく固定学級が出来た学校の通常級の保護者が、固定学級が出来た事に憤慨していた。
- ⑫通級学級にかよう女の子が、同じクラスで同じ通級にかよう男の子に、通常級にいる時にだけ、暴言や暴力をうけ学校に行きたがらなくなった。学校側は、同じ者同士のこと…と、真剣にはとりあってくれなかった。
- ⑬話せなくてニコニコしていることに漬け込み、ボールを顔面にぶつけられた。
- ⑭少し足の不自由な子を四つ這いにして3人で馬乗りになっていた。
- ⑮休み時間鬼ごっこを友達とやり鬼になるとタンマや休憩と言われいつまでも鬼になる。
- ⑯文房具やランチョンマットを数人の子に隠される。
- ⑰後ろから突然突き飛ばされ転ぶことやびっくりすることがある。
- ⑱中学の通常級に在籍している知的障がいのある子どもに対し、数人で蹴って遊んでいた。その子どもは毎日のようにいじめられ、不登校になった。
- ⑲通学路で、近隣の福祉園の利用者に対し「バーカ」と言って石を投げていた。
- ⑳中学で「身障身障…」という歌をふざけてうたう生徒たちがいた。

以上

《板橋区手をつなぐ親の会について》

板橋区在住の知的障がい児・者の保護者と支援者の会。

学齢部とは、乳幼児から高校生までの子どもを持つ保護者の部会。

会 長： 小西早苗

設 立： 昭和31年

会 員： 約400人（学齢部会員60人）

ホームページ：<http://oyanokai-ita.com/>

（学齢部担当：野原恵）